

衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会ニュース

【第208回国会】令和4年6月7日（火）、第3回の委員会が開かれました。

1 大野内閣府副大臣から就任の挨拶が行われました。

2 科学技術、イノベーション推進の総合的な対策に関する件

- ・小林国務大臣（科学技術政策及び宇宙政策担当）、若宮国務大臣（知的財産戦略担当）、大野内閣府副大臣、田中文部科学副大臣、高橋文部科学大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。（質疑者）尾身朝子君（自民）、日下正喜君（公明）、井坂信彦君（立民）、藤岡隆雄君（立民）、中島克仁君（立民）、岬麻紀君（維新）、金村龍那君（維新）、鈴木義弘君（国民）、宮本徹君（共産）

（質疑者及び主な質疑事項）

尾身朝子君（自民）

- （1） 科学技術立国の実現のために科学技術関係予算を大幅に拡充していくことについての小林国務大臣の決意
- （2） スタートアップ政策についての小林国務大臣の見解
- （3） 10兆円大学ファンドによる支援対象大学への集中投資を行うための方策についての小林国務大臣の見解
- （4） 沖縄科学技術大学院大学（OIST）について
 - ア マスタープランで掲げる300PI（主任研究者300人程度）を目指していくことの確認
 - イ OISTが行うスタートアップの取組に対する今後の支援方針
- （5） 国際頭脳循環及び国際共同研究の抜本的な推進に向けた施策
- （6） 科学技術政策の推進のための更なる機能強化として博士号取得者を科学技術政策の中核に積極的に登用すべきとの意見に対する小林国務大臣の見解

日下正喜君（公明）

- （1） 全ての人が情報通信技術の恩恵を得られるよう「人間を幸福にするための科学技術」との視点を科学技術・イノベーション推進の基盤に据える必要性
- （2） 本年6月1日に開始された気象庁による線状降水帯予測の具体的内容
- （3） 建設現場へのICT技術の導入（i-Construction）に向けた国土交通省の今後の取組
- （4） 「平成26年8月豪雨」等の自然災害の名称に西暦を用いることについての気象庁の見解
- （5） 大学におけるジェンダーギャップの解消に向けた今後の取組についての小林国務大臣の決意

井坂信彦君（立民）

- （1） 首都機能のクラウド化について
 - ア 国会及び霞が関の各省庁の首都機能をクラウド化・アプリ化すべきとの意見に対する政府の見解
 - イ スマートシティの延長に首都機能移転を位置付けてはどうかとの意見に対する小林国務大臣の見解
- （2） 海外から優秀な研究者を誘致するに当たり我が国に足りない要素についての小林国務大臣の見解
- （3） オープンサイエンスについて
 - ア データを提供する者へのインセンティブをどのように設計するかについての小林国務大臣の見解
 - イ ブロックチェーンを活用したソーシャルトークン等のインセンティブ設計を各プラットフォームにおいて試行すべきとの意見に対する小林国務大臣の見解

藤岡隆雄君（立民）

- (1) 我が国の光電融合技術について
 - ア 世界における位置付け及び技術の可能性
 - イ 開発、普及に向けた国の支援についての小林国務大臣の決意
- (2) 研究者の雇い止め問題について
 - ア 令和5年3月末において労働契約法の特例による有期雇用契約の上限の10年に達する研究者のうち、雇用契約期間が10年以内の研究者の人数
 - イ アのうち無期雇用契約に転換した、または転換する予定の研究者の人数
 - ウ 研究者の無期雇用契約への転換の実態を把握した上で、雇い止めの不安が起らないような措置を行う必要性について小林国務大臣及び田中文化科学副大臣の見解
- (3) 10兆円大学ファンドの資金運用を慎重に行うべきであることについて小林国務大臣の見解

中島克仁君（立民）

- (1) 諸外国の動向や社会背景を含め、本委員会が果たす役割について小林国務大臣の認識
- (2) 本委員会には、科学技術推進の総合的な対策として生命倫理に関する議論を深める目的もあることについて小林国務大臣の見解
- (3) ゲノム医療の推進について
 - ア 全ゲノム解析を用いたゲノム医療を推進する重要性を小林国務大臣はどのように位置付けているか
 - イ 遺伝情報に基づく差別や不利益取扱いを禁止する法整備の必要性
- (4) 科学技術・イノベーション基本法の対象に人文科学が加えられたことの意義
- (5) 国立特別支援教育総合研究所に保管されている、人文科学の研究の貴重な資料である山梨県立盲学校の資料のデジタル化の必要性

岬麻紀君（維新）

- (1) 小林国務大臣が所信で用いた「勝ち筋」について、AI、バイオ、量子技術といった分野をどのような根拠で「勝ち筋となる技術」としたのか、また「勝ち筋」という言葉を用いた理由
- (2) 我が国の技術力や競争力が世界に後れをとってしまった要因
- (3) 量子技術について
 - ア 量子技術の活用による国民生活への影響やメリット
 - イ 諸外国との協力、連携による競争力強化の実現に向けた取組
 - ウ 量子技術を活用するサイバーセキュリティ技術の標準化の必要性
 - エ 量子技術の国際競争力を強化するための人材や予算の確保の方策
- (4) 「ファイブアイズ」のようなサイバーインテリジェンスの国際連携への参加を検討する必要性

金村龍那君（維新）

- (1) 統合イノベーション戦略2022のうち、国際的なルールメイキングを含め、世界一を目指していく領域や分野について小林国務大臣の所見
- (2) 自動車産業について、脱炭素戦略として欧米からEV（電気自動車）の波が来ている中で、従来の内燃機関の重要性に対する政府の認識
- (3) 政府が想定している10兆円大学ファンドから国際卓越研究大学への支援期間
- (4) 博士課程に進学した女性に対する支援

- (5) 研究開発等のスタートアップ支援として、博士号取得者を専門家として投資側のベンチャーキャピタルで活用することについての政府の検討状況
- (6) 我が国においてユニコーン企業が誕生しにくい構造的問題

鈴木義弘君（国民）

- (1) 「科学技術」という用語について、「科学」と「技術」は異なる概念と考えることについての小林国務大臣の所見
- (2) 大学や国立研究開発法人等の研究開発機関の役割を整理して棲み分けをすることについての小林国務大臣の所見
- (3) 知財・無形資産ガバナンスガイドラインについて
 - ア 「投資家や金融機関が企業の知財・無形資産の投資・活用戦略を適切に評価」とあるが、企業に投資家や金融機関に対して戦略を開示させる方策
 - イ 企業の技術を評価（目利き）できる投資家や金融機関側の人材育成への取組
- (4) ハイテク産業をより振興して付加価値を上げ、その富をローテク産業や非製造業に拡大することで日本の経済の発展につながるという考えに対する政府の所見
- (5) 技術者を育成し、海外の技術者を招へいしてイノベーションを起こすために、科学技術に従事する者の給与を上げていく方策
- (6) 知的財産戦略の推進について
 - ア 大学という括りだけでなく大学の中の各研究室の知力を捉えることの必要性
 - イ 企業等と研究者のマッチングが容易となるためのデータベースの構築の必要性
 - ウ 論文を日本語だけでなく英文で世界に発表していくことの必要性

宮本徹君（共産）

研究者の雇い止め問題について

- ア 国立大学法人の有期雇用研究職員のうち令和5年3月末で雇い止めの可能性のある者の人数及び学位の取得状況
- イ 優秀な研究者が雇い止めされることは我が国の研究力を一層低下させ、日本社会にとって損失であるという認識の有無
- ウ 令和4年5月28日付の東京新聞で報道された東京大学教授の雇い止めの状況に関しての小林国務大臣の所感
- エ 研究者の雇い止めを回避するため、内閣府設置法第12条第2項に基づき文部科学省に勧告を行うことについての小林国務大臣の考え
- オ 研究者の雇い止めについての実態把握の詳細
- カ 雇い止め問題の解決をするための具体的な方策
- キ 有期雇用の研究者を無期転換するための財源を措置することについての小林国務大臣の考え
- ク 若者が博士課程を目指さなくならないように雇い止め対策の必要性について小林国務大臣の考え
- ケ 理化学研究所で令和5年3月に契約期限を迎える非常勤研究員の学位の取得状況
- コ 理化学研究所で平成28年4月の就業規程改正前から雇用されている研究者について、希望者を無期転換するように理化学研究所を指導する必要性
- サ 雇い止め問題を打開する必要性についての小林国務大臣の考え